

○第7回研修会(オンライン開催)

## 全体研修Ⅰ 「進路・キャリア教育」に関する研修

今回は、「外国人児童生徒の社会的・経済的な自立に向けての基盤となる力や考え方を育てるために、キャリア発達を考慮した支援の在り方について考える」こと、また「母国から日本へ来るなどの文化間移動が、児童生徒の心身の発達や社会とのかかわりに与える影響について理解を深める」ことを目的として、「進路・キャリア教育」に関する研修を行いました。研修の内容は以下の通りです。

### (1) 講話「学校の中の「外国の子ども」のキャリア発達

ー ある家族の移動と展望に関するインタビューから

【講師】 九州大学大学院人間環境学研究院 九州大学人社系協働研究・教育コモンズ  
木下寛子先生

講話では、まず、中教審答申と国教研「報告書」によると、「キャリア発達」は「社会的・職業的自立の過程」のことであり、「キャリア教育」は、「社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育てること」であるというお話がありました。そして、「外国の子どもたち」のキャリア発達やキャリア教育について考える上では、進路・進学に関する選択をはるかに超えて、どこで誰と、どのように生きていくのが問題になるため、キャリア発達／教育の再解釈が必要になるのではないかと問題提起がありました。

木下先生は、「外国の子ども」とその家族の生活にどのような問題や支障、試行錯誤が生じ、どのようにその局面をクリアしたり、足踏みしたりすることになったのかを明らかにすることが、日本の社会と「外国の子ども」たちの両方を理解することに繋がるのではないかと、さらには、学校でできることも分かるのではないかと考え、調査・研究をされているそうです。調査は、「家族を単位としたインタビューをもとに、外国の子どもの発達を事例として理解する」という方法で行われました。インタビューの対象者は、幼少期に家族とともに来日し、今は成人しているMさんとその母親です。木下先生は、小・中・高・大学とその後という段階ごとに、本人と母親から覚えていることや困難を感じたことを聞き、その結果から分かることを考察されていました。そして、「気づかされること」として以下のことを挙げられました。

- ・学力上の課題が見えてくる時 日本語の課題がつまずきのベースになっている可能性がある
- ・日本での進学（特に公立）では、学力のばらつきが枷になる
- ・進学先を決める際の情報が少なく、噂に影響されてしまうことがある 等

お話をお聞きして、外国の子どもたちへのキャリア教育では、「どこで誰と、どのように生きていくのか」という点も十分に考慮しながら、本人や保護者に正しく分かりやすい情報を伝えていくことが必要だと感じました。

## 研修2 配置校・拠点校研修

小・中学校の配置校・拠点校ごとに研修を行いました。テーマは「授業について」「入試準備について」「指導員との連携」「入試準備について」です。

### 感想

- ・指導している児童の将来を考え、必要な力をつけることと情報を提供することの大切さを実感した。
- ・指導員の先生との連携について具体的な方法を聞くことができてよかった。